

## 信州長野

長野に、夫の仕事で1989年春から2年間住みました。

爽やかな季節は毎週のように、高原巡りをし、雪が降るころは、あちこちのスキー場に出かけては、信州の生活を楽しみました。そしてそこでも、私たちは、たくさんのすてきなお友だちとの出会いがありました。



2004年秋訪れた長野加茂神社

今でも、季節の便りを交わすお友だちがたくさんいます。

数年に一度は、お目にかかり再会の喜びを分かち合える老舗の立派な本屋さん、茂樹君ご一家。そして、真人君のご家族との出会いには、特別な想いが広がります。

真人君のご両親はお医者さんです。どちらも、ママはもとより、パパが子育てに熱心で、幼稚園や、お友だちのおうちへの送迎は、パパが担当という日もあって、自然と私もおふたりのパパと会話を交わすようになりました。いつだったか、真人君のママは、私に言いました。

「以前は、忙しくて、真人と一緒にいる時間がほとんどなかったのですが、今こうして真人のお世話をできることが嬉しい。僕は、真人のドラえもんになりたいんです。」

まもなく私たちは、信州をあとにして、茅ヶ崎に住むことになりましたが、私たちがかつて住んでいた街に初雪が降った様子や、ご両親に囲まれてすくすく成長されている真人君の姿を写真入りのはがきで、知らせて下さっていました。

しかし、ある日突然、真人君のママ、美香さんから悲しいお手紙を頂き、パパ、すなわち達也さんが天国に召されたことを知らされました。

ドラえもんを必要としなくなるほど、真人君が大きくなり、今度は患者さんのために、お仕事に没頭されていたまっただ中、発病し、2年間の闘病生活の末たくさんの方に見守られながら、旅立たれました。

お医者さんを目指して、医学部で勉強中の真人君へ、そして、美香さん、周りの方々に、見事に命のバトンを渡されて。

達也さんは、一人っ子の真人君をそれは大事に育てられました。

美香さん、これからもママ友達でいて下さいね。

## きっと巡る

結婚して親元を離れて以来、核家族で過ごしてきました。

子どもが小さかったときは、何かにつけて、どちらの実家にもお世話になりました。しかし、子どもの成長に伴い、なかなかゆっくり帰郷ができなくなった今、皆元気で、その土地での生活を楽しくしてくれるように祈るばかりです。

子どもたちは、私の知らないところで、たくさんの方にお声をかけていただきます。どちらの親も、周りの方々にいつも親切にいただいています。

そして私は、ご年配を見かけると両親を、年下の方はみんな、自分の妹、義妹、義弟のような気がして、更には、子どもさん達を見かけると、甥や姪の姿に重なります。

私は、私ができるところで、そのお返しができればいいなと思います。

秋田にいるとき、たった一泊だけ、私の父が出張のついでに子どもの顔を見に来てくれました。そのころ、どういふもてなしをしたのか、良く覚えていませんが、秋田を発つときに、渡したお弁当が、とてもおいしかったと、言っていたことを、後に母から聞きました。

今、皆さんに、簡単に作れておいしいお弁当のコツを、お伝えしようとしているのは、根っこには、このことがあるからかなあなんて、思い出しています。



### 豚肉と野菜の炒め物

まず、豚肉に下味をつけて、片栗粉をまぶし、炒めるときは、フライパンに入れてすぐには、箸で触らないことが、ポイントです。そして表面に膜ができて来て初めて両面をよく焼きます。一度、別の皿に取り出し、あまり水気のでない野菜類を選び、強火で手早く炒めたら肉を戻し、好みの味付けで仕上げます。

### お弁当の彩り

ふたを開けたら、中身がよって、ぐちゃぐちゃだったということは、日常茶飯事なのですが、せめて、詰めるときは、お皿に盛るように、彩りよく入れたいものです。

